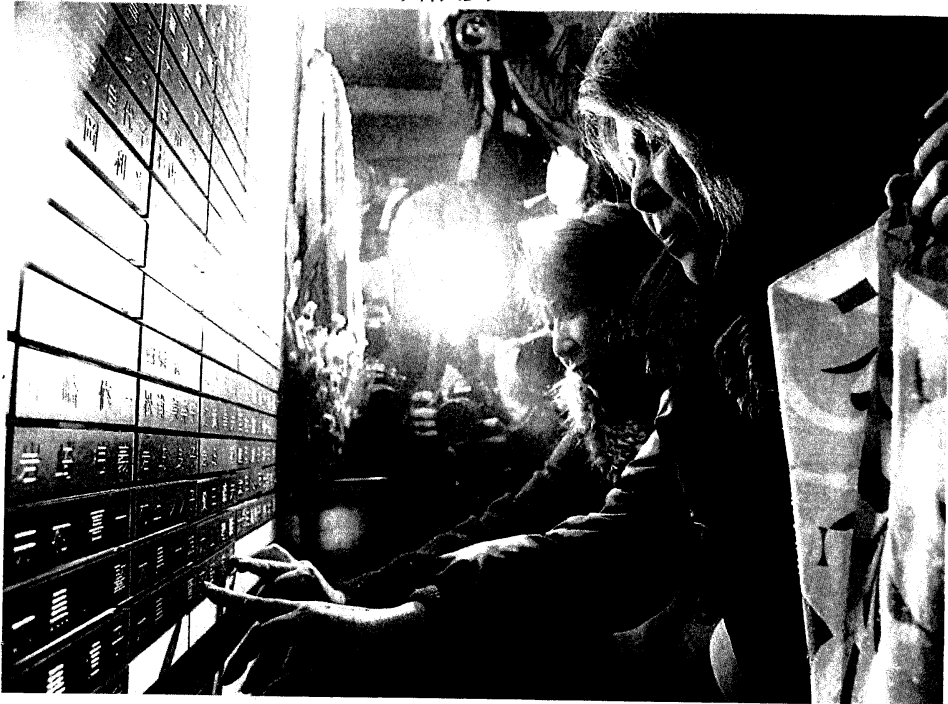


三宅島ふるさとだより No. 48

平成 27 年 1 月 1 日 三宅島ふるさと再生ネットワーク

神戸新聞 2014年(平成26年)12月21日

「慰霊と復興のモニュメント」に貼り付けた銘板をそっと指でなぞる女性＝20日午後、神戸市中央区加納町6 (撮影・小林良多)



慰霊と復興のモニュメント

あなたがいた証し刻む

震災 20年 次代へ

銘板24人追加 貝原さん、黒田さんも

阪神・淡路大震災から20年を迎えるのを前に、震災の犠牲者らを悼む「慰霊と復興のモニュメント」(神戸市中央区)に20日、新たに24人の名前が刻まれた。今年亡くなった前兵庫県知事原俊民さんと、NPO法人「阪神高齢者・障害者支援ネットワーク」理事長の黒田裕子さんも特別枠に追加され、銘板は計497人となった。

新たに掲げられたのは、

(29面に関連記事)

芦屋市と西宮市で亡くなった7人▽遠因死15人▽特別枠2人―の計24人で、20人初は神戸市民と同市で犠牲を超えるのは25人だった。010年以降、この日の式典には16遺族、約40人が出席した。

知事として震災に遭遇した貝原さんは新しい都市機能を備えた「創造的復興」を掲げ、復旧・復興に尽力。モノUMENTの設置にも協力した。今年11月、乗っていた車の衝突事故で亡くなった。9月に死去した黒田さんは全国の被災者支援に取り組み一方、銘板に名を刻む遺族のケアにも努め

銘板の追加希望はNPO法人「阪神淡路大震災17希望の灯り」☎078・682・1117

(黒川裕生)

東・西の災害被災者支援の巨星失う

元三宅支庁齋藤實さん一二月二二日に逝去

阪神・淡路大震災から海外を含め被災者支援を行ってきた黒田裕子さん（七三歳）の偲ぶ会が一二月二二日神戸で全国から六五〇人も参加して生前を偲んだ。

何とこの日に、私たちが全島避難中に三宅支庁総務課長で復旧事業にあたった齋藤實さん（六三歳）の家族から逝去したと神戸から帰宅して直後、知らせを受け大ショックであった。

齋藤さんは、都庁を定年退職前後から「危機管理勉強会・齋藤塾」を立ち上げ勉強会五二回見学会一八回と毎月毎日ホームページで発信し三宅にも一二月三日に来島して各地を訪れた。一三日の三宅島支援者の集いでも三宅島の復興支援を強めると、力強いご挨拶を頂いた。

まさに、その活動力は、齋藤さん、黒田さんのお二人は、わが故郷の誇り浅沼稻次郎社会党委員長が「人間機関車」と称賛されていたが、それにふさわしい活躍であった。

予期せぬお二人の早すぎる死去は、世界的な自然災害の多発に備える私たちにとってははかり知れない損失である。

とまれ、残された教訓を活かす努力こそ供養となることを、私たちは、ひと時も忘れては、ならないだろう。

生前のお二人の三宅島支援に感謝をこめて。

会長 佐藤就之

神戸新聞

淡路大震災で実家を失った女優が企画に参加。東北でボランティアをした中高生らが活動を報告したほか、神戸の被災者も参加し、防災や支え合いの大切さを確かめ合った。（白倉麻子）

11日で東日本大震災の発生から丸2年となるのを前に、東京都豊島区で9日、子どもや若者らによる「防災フォーラム 1・17神戸から3・11東日本そして未来へ」が開かれた。阪神・

阪神・淡路で実家全壊の女優ら企画

支え合いの大切さ確認

豊島区はこれまでも子ども向けの防災教育などに力を入れてきた。今回は、阪神・淡路大震災で神戸市兵庫区の実家が全壊した女優の京町さん（53）＝東京都練馬区＝と企画した。

豊島区内の中学生による防災教育の研究発表や被災地支援団体の報告などに続いて、中高生らが「ユースサミット」と題

東京・豊島でフォーラム

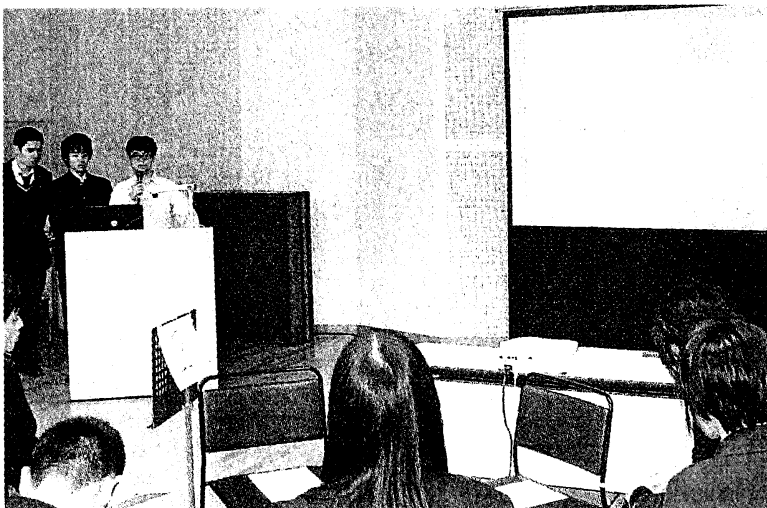
して意見交換を行った。

関東の大学生や社会人でつくるグループ「DTPA」は、東北の被災地情報をミニコミ紙で紹介する活動に取り組んでいるといい、「時間がたつと、新聞やテレビの被災地報道が減る。その穴を埋めるミニコミ紙の存在は大きい」と強調した。神戸のNPO法人「阪神淡路大震災1・17希望の灯り」の白木利周理事

神戸からも被災者参加

中高生ら意見交換も

（70）らも参加。神戸・三宮の東遊園地にもあるカス灯の火を、津波で大きな被害を受けた岩手県宮古市の田老地区の灯ろう「夢灯り」に移した。豊島区防災課の佐藤和彦課長（50）は「被災地への関心やつながりを持ち続けてほしい」と話していた。



東日本大震災あす2年

被災地支援の活動などを話し合う中高生ら＝東京都豊島区